

食品リスク と 消費者行動

アンドレアス・ボーカー
カナダ、ゲルフ大学
食品・農業・資源経済学部

国際消費者政策シンポジウム

「グローバル社会における消費者政策の未来」

食品リスクと消費者行動

グローバル化した世界における食品由来
リスクを総体的に捉える

食品の安全性

短期

自由意思によらない

特定

責任がある人

食生活/栄養

長期

自主的(?)

拡散

責任の所在は?

どちらも根本的に異なる政策が必要!

食品リスクと消費者行動

政策面ですべき 実施事項

コミュニケーションにおける優先順位付け
リスクコミュニケーション

対策の優先順位付け
リスク管理

リスクの優先順位付け
リスク評価

消費者側が直面 する事実

消費者の信頼 & 社
会ネットワーク

原動力: 怒り、脆弱
性など

知識、新技術

食品リスクと消費者行動

すべき事項: リスクの優先順位付け

- 様々な発生源による様々なリスク
- 科学的根拠が必要不可欠
- データ上の制約(生存曲線)
- 測定上の課題
- 国特有の優先順位付け

国際レベルでの対応

効率的 & 効果的な報告制度

共同研究/情報・意見交換

食品リスクと消費者行動

すべき事項: 対策の優先順位付け

- 効率化/費用対効果が不可避
- 様々な対策/介入を可能にし、行政体系に組み込む
- ほとんどの場合、資源は限られている
- 命を秤にかけることの「不道徳性」

国際レベルでの対応

国際機関によるガイドライン: CAC(国際食品規格委員会)、OIE(国際獣疫事務局)

規制を策定する際の相互「認識」

食品リスクと消費者行動

すべき事項: コミュニケーションの優先順位付け

- 消費者の疑問に対する独自のなすべき事項または対応
- 緊急時/今までにないリスク/リコール
- 伝達経路および情報源の競合
- 対象グループの多様化

国際レベルでの対応

現在、ほとんど皆無

食品リスクと消費者行動

消費者側の事実

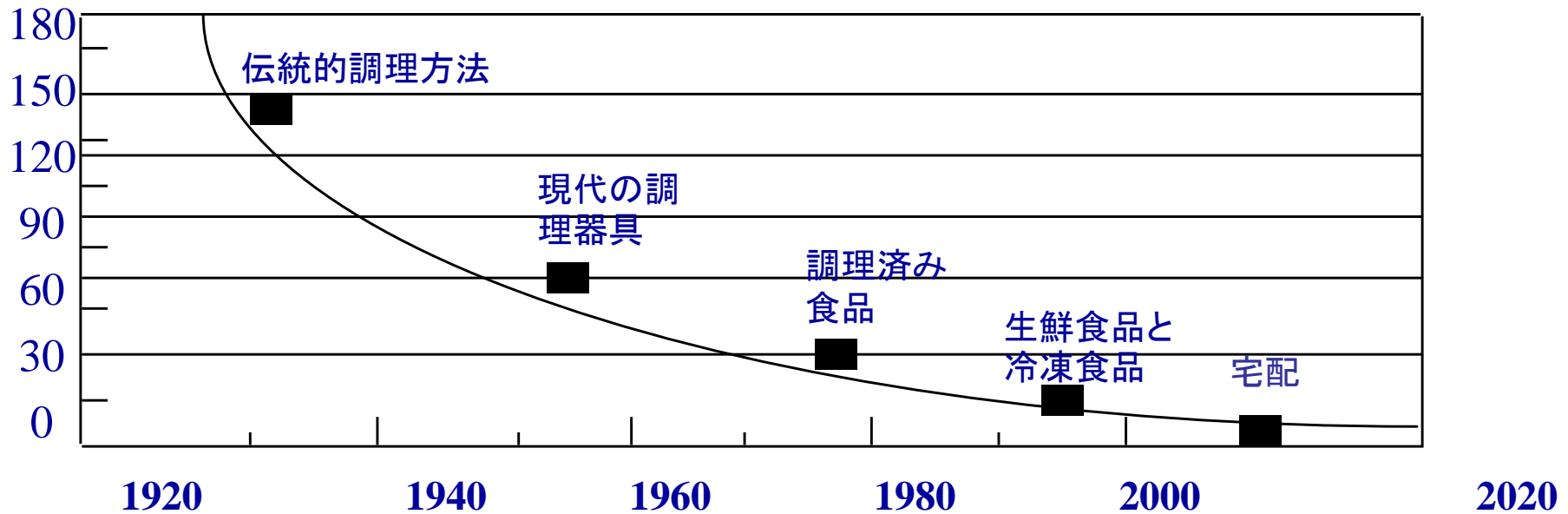
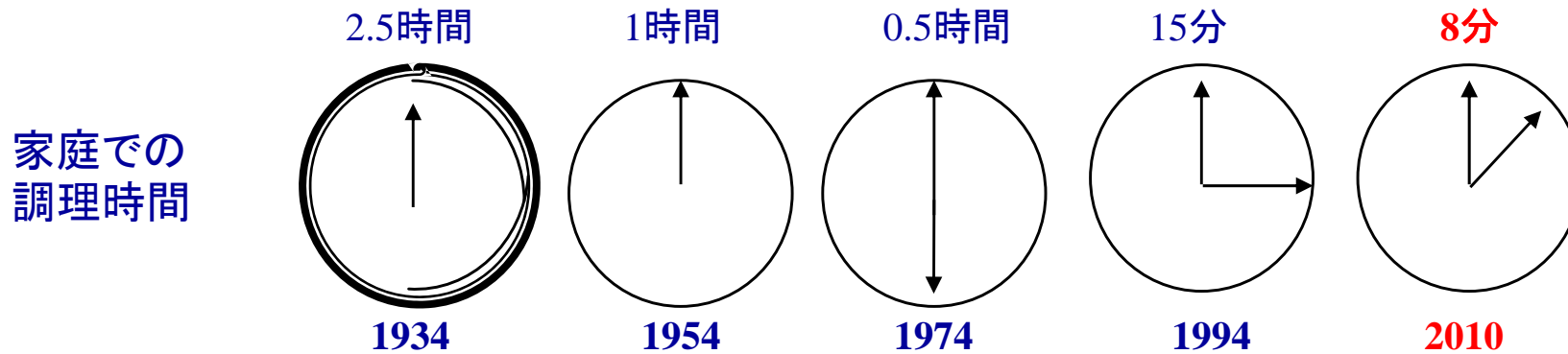
消費者の信頼 & 社会ネットワーク

原動力: 怒り、脆弱性など

知識、新技術

消費者の反応の原動力: 食事の準備時間 & 利便性 ⇒ **知識**

家庭での食事準備時間



食品リスクと消費者行動

食品由来リスクに対する消費者反応の原動力 ⇒ 懸念
⇒ 関心 ⇒ 行動の変化

- 自身の脆弱性を認識
- 経験
- 怒りの要因
- 自由意志によらないリスク
- 今までにない/制御不可能なリスク
- 壊滅的な影響

食品リスクと消費者行動

信頼: 効果的なコミュニケーションのための1つの手がかり

信頼性に関する3つの指標

- 能力
- 配慮/独立性
- 重要な価値観の類似性

だが、批判力を持った消費者が(消費者政策の)目標ではないのか?

信頼 ⇔ 不信

食品リスクと消費者行動

信頼と不信: 驚くべき事実...

マスコミは信頼されていないが、情報源となっている
政府はあまり信頼されていないが、即座に要求される
GMOの受容に関して、公共機関に対する信頼は友人や家族の意見よりも低い
(国際的な)企業は最も信頼されていないが、そのブランド力は顧客の忠誠と信頼を得ている

ブランドは友人のように信頼される
(ロビー・ウィリアムズ)

食品リスクと消費者行動

消費者政策または食品省庁は信頼のブランドになるべきか？ そうであれば、その方法は？

リコールやその他の緊急事態など、メリットが明らかな分野における能力

科学に基づきなすべき事項を追求することにより示される能力

地域を対象にした、実績ある優れた国際的研究

科学的知識の変換

イメージおよび擬人化？

入手しやすさや双方向コミュニケーションを通じた配慮

地域のイニシアチブ、特に食生活関連のリスク対策に対する支援

消費者政策は共通の責任である：省庁、業界、社会的団体